凝固・線溶検査における運用の標準化を目指して（第 2 報）

多施設共同調査における、夜間・日直検査プロセスと教育の検証

◎久場 恵美[1)]、大城 盛邦[2)]、長嶺 陽人[3)]、木南 有希[4)]、馬場 晴夏[5)]、細越 小夏[6)]、井上 万裕紀[7)]
社会医療法人 敬愛会 中頭病院[1)]、沖縄県立宮古病院[2)]、社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院[3)]、医療法人 輝栄会 福岡輝栄会病院[4)]、医療法人 朝日野会 朝日野総合病院[5)]、福岡大学筑紫病院[6)]、医療法人 愛風会 さく病院[7)]

【背景・目的】凝固・線溶検査領域で誰が携わっても同等の報告を行う為に、経験値に左右されない標準的な結果の解釈を行う必要がある。専任の凝固担当者が行う時間帯だけでなく夜間・休日にも求められる。機器取り扱い、検査値の評価方法、臨床との連携などのプロセス、凝固検査経験値の低い方への恒常的な教育も必要である。多施設からのアンケート結果より運用や取り組みを基に標準的プロセスを検証し現在抱えている問題を確認する。

【対象】九州 7 施設（ACL-TOP 機器使用施設/アイ・エル・ジャパン）で,各施設の凝固検査担当者と時間外勤務者を対象にアンケートを実施した。

【結果】夜間・日直、教育、現在の問題点のアンケート結果より、夜間・日直の精度管理実施は、日勤帯で精度管理実施後夜間当番者に引き継ぐが 5 施設、夜間当番者が精度管理実施後日勤帯に引き継ぐが 1 施設、時間外検査項目として 6 施設は通常項目と同じ。結果報告の為のマニュアルは 4 施設で運用し当直用マニュアルとして併用され、測定エラーや異常値対応、再検査基準なども含んでいる。夜間・日直マニュアルは無いと答えた施設も、再検の可否手順や臨床への確認など事前の取り決めを行っている。夜間・日直者個別教育対応は、2 施設であったが、詳細な確認で事前に再検条件を教えることや、入職時・転勤者に夜間・日直対応前に異常値、機器エラー等の手順を 5 施設で行っていた。検査部門全体の教育実施は定期的ではなく、不定期に 3 施設で行っている。部内勉強会において凝固関連の実施を不定期に開催している施設もあった。現在抱えている問題は、検査結果解釈の不安が多く、その他は、教育方法の内容と時期であった。

【まとめ・考察】各施設での夜間・日直者の検査運用の実際と、夜間・当直マニュアルの活用、教育内容を検証したことで様々な運用があった。検査機器運用も含め検査結果報告に若干の不安も見えた。そこで、標準的手順書を用いた継続的教育の為に、研究用項目の凝固波形解析（CWA）なども検査運用情報の一つとして活用を検討し、教育マニュアルの作成に向けた取り組みを 7 施設で行う。

連絡先：098-939-1300(内線 2230)